

Leo alliance 12
21 Lions and 147 tanka
2024 summer

獅子座同盟12



獅子座同盟12 獅子座有志による獅子座アンソロジー
発行：2024. 07. 23 短歌：獅子座有志の皆さん

Leo alliance 12
21 Lions and 147 tanka
2024 summer

獅子座 同盟12



宇祖田都子	堂那灼風
早川夏馬	宮嶋いつく
桐野黎	月岡浅葱
麻倉ゆえ	おさとう
かわはう	森内詩紋
壬生キヨム	箭田儀一
杏野白湯	かきもち もちり
千原こはぎ	夏生 薫
水せ	高田月光
篠田葉子	白藤あめ
せが人	(誕生日+ご投稿順)

同じ星



あの夏にあなたに出会うためわたし生まれてきたよ 生きていこうね
 平和とか戦争なんてわからないけれどあなたは生きてていいよ
 いつの日か宇宙に還るならわたしあなたと同じ星になりたい

一輪の向日葵となりあなたから水をもらってほほ笑み返す
 あたにかい地球になった 朝焼けのあなたが生まれて陽が差し込んで
 朝五時にあなたがわたしを呼ぶ声に微熱まತ್ತおはよう返す
 何度でもあなたと出会い直したい だから今だけ少しおやすみ

獅子座有志による獅子座アンソロジー
 テーマ「星・宇宙・星座・獅子・夏」

獅子座同盟12
 21 Lions and 147 tanka

誕生日は祝うのも祝われるのも苦手だった、だからきみの誕生日を祝うことを直前まで決められなかった、だけどきみは祝われてずいぶん嬉しそうだった。わたしも嬉しかった。生きていきたい。きみと生きるを選んでいたい。

しうふて
 白藤あめ

@ametxt

08/22

1996年夏生まれ。千葉県柏市在住。ZINE フェスと文学フリマを活動主体としている。イベントごとに短歌と日記のZINE「かられず」を発行、頒布する。最近「しずかなインターネット」が楽しい。

海の星でも星の海でも



夏は熱 舟を燃やした砂浜にうづめた足がをかされてゐる
夏のこといつかあなたの地層から始祖鳥として掘り出されたい
二人ともはだかそのまま飲むソーダほのかな海のにほひをさせて
平熱の背に靠れあひそれぞれの流星群を見送つてゐる
白桃のこほりをとけばぐづぐづとあの夏がいま終はりつつある
この夏があつた夏になり元彼が元々彼になつても泳ぐ
おもひきり泣いてもゆるされてみたい海の星でも星の海でも

三角の宇宙は砂時計の外に



意味のない宇宙は砂時計の外まもなく星を離れて生きる
迷路より複雑だった星ですら卵に始まり卵に終わる
うさぎなら海でも生きていけるけど星占いを失う恐れ
どの橋を渡つてきてもドアノブに夏限定のゾンビドーナツ
雑踏で真っ赤な鉄振り上げて夏を指揮するザリガニの影
静かなる支離滅裂な四捨五入すれば天使は夏の三角
シロナガスクジラが思考する時間至近距離から始まる宇宙

星の光を掻き分けて泳ぐ。
離れた岸を振り返ると、岸辺の炎となつたあのひとがいつまでもゆるめいてゐる。
わたしは海ではなく、あの炎に飛びこむべきだったのだ。

たがたげっこう
高田月光

@v8QdMu8W0fj9vbi

08/22

夏を夏の終わりのことだと思ふのは、獅子座の最後尾に生まれたことと関係していると思います。今年も居場所をありがとうございました。普段は旧 Twitter にいます。別名義で塔短歌会や新聞にもいます。遊びにきてください。

砂時計、無重力なら無意味。でもそれは時計の方の話で。泳ぐのはジャンプに似てて蹴るための重力だって気づいてしまふ。あまたある星ごとにある新作のドーナツで釣る重力の罠。ワイヤレスイヤホンぐらいセンシティブなデバイスつまり超弦理論。羽がある生物ならば三角の光る何かで断ち切る重さ。

うそだみやこ
宇祖田都子

@Shinnsyutu2020

07/23

獅子座同盟の短歌を作るときは、まず「し」「ざ」「ど」「う」「め」「い」で始まる言葉を書きつけてみて、「テーマ」を念頭におきながら反芻します。すると、それらが渦を巻き始め、次第に星が生まれるように、短歌が現れてくるのです。その瞬間が、なによりも楽しみです。

遠くの星を射止めるように

むずかしいことだよこれは孤独からその心臓を掘りあてるほど
レイリー散乱（遠い銀河も夏空も）手の届かないものの青さだ
名を持たないひとつひとつのさびしさがひとつとなっておし寄せる海



とあるSFアニメで、光を歪めてしまうほどの水と大気で地球の空は青いのだと言うヒロインに、主人公は「空が青いの
はレイリー散乱、雲が白いのはミー散乱」と言い放つ。遠いものほど青く見える現象だが、海の青さはまた別らしい。

いずれにしても、青い光は他の光より長い旅をしがちみたいだ。

ねむる日も南十字星の傍らに小さくゆれる白い花だよ

だとしたら何もかもみな星だよね黒で潰れたページがあっても

渴望 諦念すらかすむほどに北十字星ノイザンククロスまがいのでも

アガパンサス蕊伸ばしゆけひとりゆくはるか白色矮星にまで

ながいおひるね



あの夏の空へとつづく銀色の扉としての郵便ポスト

自家製のきゅうりこきりと噛みきれば舌の先にも夏跳ね上がる

思い出の光まぶしくなるほどに青みを増していくぼくの影

ひと玉の種なすいか抱え持ち爆発させる庭を求める

取り返すつかないうちもうつくしい愛があるのか凌霄花

ひまわりの海におぼれるはなびらのはざまの青に手をさしのべる

ぼくたちを終着点へ運ぶため夏の夕べを下るゴンドラ

凌霄花の美しい庭が近所にあります。鮮やかな赤が目を惹きますが、生命力が強く、気がつけばあっという間に建物を覆ってしまうほどだと聞きました。その家の前を通るたびに、知らない間に心の深いところへ根付いてしまった想いもあるのかもしれない、それは美しくて少し怖いな、と思っています。

はやかわなつま
早川夏馬
@kakahayama

07/25

東北芸術工科大学のクリエイティブでない学科卒。程度のひどいオタク。犬派芝党。ちよろいので夏生まれを好きになりがち。友達超少ない。2019年、短歌沼に落ちる。未来短歌会所属。今年も参加できて嬉しいです。みなさんお誕生日おめでとございます。

なつお がおる
夏生 薫
@kaorunatsuo

08/19

毎年企画していただいてありがとうございます。今回は二回目の参加です。超滑り込み参加です。夏休みの間に誕生日があったので、子どもの頃はお誕生日会というものに憧れがありました。これからは獅子座同盟で皆さんの誕生日をお祝いしたいと思います。

にせものの獅子



幻聴をいつまで信じればいいの獅子の爪など持っていない
笹舟が流されるたびまたたいて痛みを銀河として天の川
カメラ・オブスキュラに映る獅子座ならわたし獅子座を名乗ってもいい
海岸に星が降るならこんな音たまいいしを踏む靴底の音
息の緒と同じリズムの海鳴りを聴ける星ならどこだっていい
前脚になってしまえば良かったね包み込むしか出来ない右手
にせものの獅子を纏って生きていく何度でも星を繋ぎ直して

天体事象



シリウスが窓に嵌まれば透明に君への距離が浮かびあがって
あさましく君を観測してしまふ天体事象であるかのように
仄昏ultima Thule指してゆく君の思惟が彗星となる

本当は人に化けた星なのでしょうそんな寓話も見透かすのでしょうか
幾度めか君の奥処でジョバンニとカムパネルラがまた訣れゆく
何もかも忘れ（なくても）眠れ廃プラネタリウム天蓋として
いつの日か君の落とした風を拾う海王星の瞼のもとで

きりのれい
桐野黎

@Tower11710

07/26

一人文芸倶楽部 Tower117として、詩：塔野夏子、五行歌：南野蕎子、短歌：桐野黎、俳句：星野響、文章：銀野塔と、筆名を分けて何やらいろいろ気の向くままに書いています。獅子座同盟は五年連続五度目の参加です。ここどころ短歌があまり書いてないので今年後半もつと書きたいです。

かきもち もうち

@kakimochiri

08/17

短歌を詠む獅子座のペンギン。#かひょ〜んというユニットで短歌を読むスペースもやります。今まで踏み出せなかった獅子座同盟に、今年からはじめて出せました。やったね。

坂の多い街で生まれた。学校の帰り道は長い下り坂で、見上げなくても星を見ながら歩くことができた。

北極星ですらいつかズレていく世界で、立ち止まり続けることの難しさを、星の見えない街に住むようになったわたしは、わかったようなつもりで生きている。

自分は近い関係性より遠い関係性を志向してしまうところがあると近年つくづく実感している。星という存在は遠くて、そして気象条件さえよければ見える。さらに異常気象等で地上の季節感が多少おかしくなっても、私の生きているスパンくらいなら季節による星の巡りは変わらない。ありがたい。

わかって光って

指させば小さな点が意味をもち星空となり笑顔を照らす
星たちをアステリズムとして結ぶみたいになをつなぐ言の葉
わかったらそう見えてくる気づきとは心に星をくつつける魔法
星座線なんて勝手に引けばいいけれど受け継ぐことも自由だ
星々の見立ての違い多様性という地球に満ちる法則
見えた時その眼は遠い星からの光を直に触っています
星空に軽く味つけしたディナー信じたいたいの価値

どこまでも青に溺れる

ひまわりの顔を見上げて君と僕日差しの中で影がひとつに
夏風がアトランティスを呼び覚ます黒い髪した君の囁き
砂時計逆さに戻し息止めるキスの長さに溶ける砂浜
汗ばむ手繋ぐ間の空白できみに浸れば青に溺れる
蝉の声途切れぬ想い追いかけて夏の恋は溶けゆく砂糖
夕涼みゆうもあ滲む風の音しのび泣く虫の声は遠く
熱帯夜君の香りが残る部屋独りで眠る冷たいベッド



星を見るとき、それにまつわる文化や科学の知識も少し付け加えたら、宇宙はさらに深く広くなるのではないかな。唯一絶対の正解があるわけではないけれど、いろんな情報が世界をより豊かにするのではないかな。そう思って、星を見る人に言葉の魔法をかける。

07/29

あさくろ
麻倉ゆえ

@AsakuraYue

基本あまり詠まない読まない生活ですが、最近もうちょっと積極的に短歌を楽しんでみたい気分になってきました。
星空案内人 / 星のソムリエ®として活動中。
今まで獅子座同盟に投稿してきた連作たち、そろそろまとめてみようかと思っています。



夏が来ると、空気まで輝く。青空に映える白い雲、太陽の光に反射する海、目映い緑の葉。すべてが生き生きとしていて心が躍る。冷たいアイスの一口、砂浜を駆ける足音、夜空に咲く花火。日常の何気ない瞬間までも、特別な輝きを放つ。
夏って、そんな魔法を持ってる。

08/14

や だ よし か ず
箭田儀一

@YChukaito32142

最近短歌を詠み始めた超絶初心者です。加えて初参加です。「夏」を主軸にして詠ませていただきました。Twitter (自称X) の隅っこでほぼ毎日短歌を投稿しているので、たまにでも見に来ていただけたら嬉しいです。

アナタへトフレ

両耳に流星揺れる夏姿ただ柔らかなあなたのリズム

願ったら叶ってしまうかもしれず星を見たいと言わない、今は

ああ、ちくしょう、かっこいいな……とチラ見した横顔 メガネに映る金星

並び居ることを選んだポルックス 言葉にしないけれど大事に

コンビニの駐車場から見る銀河あえて埋めない5センチの距離

レグルスでいたいな いつも誠実に今と向きあう自分でいたい

何光年先まで祈りは届くのか 星と幸い あなたへと降り

にせものの星

私にはRとLが難しい たべっ子どうぶつ Lionを食う

雨の日もルンルン気分 見上げれば常に星空が広がってる

脱衣所の鏡に飛んだ歯磨き粉が星空みたいですぐに拭き取る

誰からも見つけられずに爆ぜてった名もなき星を想う放課後

星空のようなスカート風になびく あたしはあたしのために生きてる

宇宙規模で考えればヒトなんて塵芥のよう お前のことだよ

もうもはや春夏梅雨夏秋冬だ 夏第二幕がそろそろ始まる



過剰接触連星という不思議な星のことをこの夏知った。

この連星の未来は、1つの大きな星か、ブラックホールなのだとか。

予想はできても不確定な未来像。

なんだか自分と先輩みたいだ。

そう思ったら、ブラックホールも悪くはないような気がしている、今。

もりうちしもん
森内詩紋

@NJq4oEvg5glcRpu

08/12

今回は実は、うたそら第21号をスタート地点にした連作になっています(笑)

合間の様子はXの#日常歌で放流中。

暑い日が続きます。皆さんお健やかに!



終電に乗って窓の外を眺めるとマンションやビルの窓がキラキラ光っている。この街ではなかなか本物の星は見えないけどにせものの星もなかなかいいもんだ。

かわはら

@suikamikan_kawa

07/30

かわはらです。2年連続参加です。夏生まれですが夏より冬が好きです。

見込みのない愛の告白



夕食が全然足りない友だちの友だちの流星

形だけの麦茶と星図は用意したが見たいように見ろよ闇夜を

その結果会えなくなっても暗闇を見ればお前を思い出、してしま

お月様は僕に一言「旅に出る」と告げた多くの死人のように

見守りの義務を拒否して月の下で「本音は証明されるべき」とぞ

いつまでも立ち続けたりいつまでも話し続けることはできない

月は今夜感情に溺れあなたの名前を呼ぶだろう何度も

夏のパレット



欲張って誰かが高く盛ったのね ソフトクリームが食べたくなるね

青い海 あの夏の影で泣いていた君の涙でしょっぱくなったの

涼やかな琥珀の風鈴響かせて 汗も拭わず佇むビードロ

ちようど良いところを探す 冷房の設定温度に悩む獅子女スライイングス

いつかの夜 習字の帰りに出くわした 優雅に水辺を舞う星の名は

平野ゆく車窓を埋める一面の緑の海原 育ち盛りなり

今日も咲く まぶしいほどの夏を浴びた凌霄花は夕焼けの欠片

おさとう

@sugar_to_osatou

08/12

今年もなんとか間に合いました。
獅子座同盟には四度目の参加です。
気まぐれな創作意欲に振り回されながらも細く長く短歌を続けてきました。拙い歌でもなんだかんだで愛おしいものです。
上達するまで短歌を詠んでいきたいのですが、きつと一生詠むことになりそうです。

夏生まれだけど

夏がそんなに得意でなくて、

冷房の効いた部屋から

夏を眺めてばかりいる。

夏は全部が鮮やかで燦めいていて、
いつも夏の眩しさには目を奪われる。

ガラス越しの夏は、

夏の色は今年も美しい。

壬生キヨム

@kiyomumibu

07/30

「かばん」に入ってます。文学フリマにて自作の短歌集を頒布しています。

夜空の中のたった一つの星を見つめるためには月が明るすぎると叔父さんは優秀な超能力者に明るさを調整できるように改善を依頼していたが、月はますます明るく夜どころか昼間でも存在して彼の心を惑わすだけだということが判明しそんな彼は最近勝ち誇ったように僕の部屋でルイボスティを飲んでいる。

星だけが見ていた

「獅子座はリーダーシップがある」なんて誰が言い出したんだろう

倒される運命かもね百獣の王と言えどもアスファルトには

たてがみのように威嚇をしてみてもなかったことにされる弁え

今はまだ諦めないでほしい星を掴んで君に手渡す

レグルスがついているから大丈夫たとえ本音を飲み込んでても

ありきたりな毎日だけどライオンがお風呂掃除をしてくれている

幾千の輝く点となつてなおミルクセーキに憧れていた

さんかくの夜

一等星ばかり繋げた星座にはどんな名前もふさわしくなく

やさしさは少ない方が明るくて 星を見るためだけのベランダ

なめらかな膨らみだろう幾億の生を飲み込む宙の呼吸は

見えているものが違っていい遠い未来と金星丘の横皺

夏味のビールを選ぶ豊かさはふたりを守る鎧であった

微睡みの星間を泳ぐ胸鱗で涙を拭うふりはおしまい

わがままを許すみたいに戯れあってプルダウンから夜をはみだす



獅子に象徴されるそのイメージが、すべて備わっているとは限らない。日々弁えていることを強要される生活でも、諦めないでいたい。私は獅子座だから、獅子の加護も、レグルスの光も、ついていると信じたい。そうやって生きていることを、星だけは知ってくれている。

つきおがあさぎ
月岡浅葱

@pale_bg_moon

08/12

本や漫画を読むことが大好き。短歌は小さい頃から好きだったけど、作り始めたのは社会人になってから。同郷の推し歌人に憧れて、自分もぼつりぼつりと公表するように。獅子座同盟は昨年初めて知り、私も参加できる!と嬉しかったけどちょっと間に合わず。今年初参加です。どうぞよろしくお願いします。



さみしさを誤魔化すように息をした。外気を吸い、気道を通し、肺を膨らませた。季節の風は重くすこし苦しいけれど、ここまでできたことを思えばなんともなかった。考えなくても呼吸は続く。それでも自分の意思で自分を生かしている実感は、大きな孤独をひどく勇気づけてくれた。

あんのさゆ
杏野白湯

@haj216

07/30

アイドルオタクの短歌詠み。憧れていた獅子座同盟にはじめて参加でき、とてもうれしいです。獅子座の大層な評価を下されがちところが結構気に入っています。心は夏が大好きなのに身体が夏を受け付けてくれません。

夏だっだ

もうそろそろいい？って感じでサンダルを今年も履いてもう夏だった
なにもかも遠退いてゆく星も言葉もきみも見えない天井
爪の先に星を散らして夜にするすこしは強くなれた気がする
さらさらと素脚を撫でる紺色のスカートふれられるために買う
約束がうれしくて怖くもあってライオンみたいに切り裂いてゆけ
夏の雲みたい、と空を指して言う三十六度の真夏の午後には
紺色のスカートを手に弄ぶきみと気怠い夜になりたい

ライオンはいつもはだし

ライオンと呼ばれるでかいネコでありたまに毛玉を吐き出している
何者も恐れぬ百獣の王さえ逃げざるを得ぬカバの襲撃
足元を見る癖のある人は気付かないけれどライオンはいつもはだしだ
プライドを持たない若いライオンはパタスモンキーよりもかなしい
ライオンを恐れず襲うライオネルの蛮勇をうらやんでいるのだ
サーカスで火の輪をくぐるライオンが飛び越えているけどものの壁
たんぼの丘で平和にまどろんでいるライオンも牙は抜かない



新しいスカートをひとつ買い足した。
そのくらいでは変わらないってわかって
はいたけど、小さなほころびのように微
かな変化はあって、逢いにいく口実だっ
たり、ほんのりとやる気が出たり、その
程度でも現状のわたしには大きなことだ。
まだ夜のほうが安らぐけれど。

ちほう
千原こはぎ

@kohagi_tw

07/31

隔月刊の短歌誌「うたそら」編集鳥。鳥歌会・
滋賀で歌集を読む会主催。短歌アンソロジー
や折本歌集などを作っています。
歌集『ちるとしふと』（書肆侃侃房）、短歌本『こ
れはただの』（私家版）。
少しずつ世界に復帰を試みています。



あなたはライオンのために獲物を狩ること
ができるか。
若いライオンの食欲を満たせるか。
ライオンがすみかに身を潜め、
隠れ場で横になって待ち伏せする時に。
—ヨブ記 38章 39, 40節

みやじま
宮嶋いつく

@miyazima_izq

08/11

夏生まれだけど暑さに弱いあたくしだが、夏ば
てはしたことがない。素麺やざるそばも好きだ
けど、時にはキムチ鍋も食べたくなる。

夏だんだんと



飲み会にだんだん合流するようにセミが星座が入道雲が

梅雨明けの夜の青田は思い出す獅子座は春の星座であると

食べたくて食べずを決めて食べたくてうなぎに似たり獅子の大鎌

草原をまとうがごとく麻のシャツ濡れたそばから乾いてしま

似たようなラベルを貼って遠ざけておく憧れの人も死人も

集まって星座になって本当の距離を忘れて悠しく過ごす

なんらかの星座の宙域かもしれず無邪気にメッセージを送り出す

うつくしいひとへ



涙すらかわかないほど暑かったもつと冷たい場所へいきたい
名を呼んでもらうことなどできなくてあの音をまだ聞けないでいる

透過する思い出たちに爪を立てもうすこしだけ眠らぬままで

息はできない鰓もない空气中 焼けた喉からあいを叫んだ

むせ返る薔薇の香りのここはもうずっと迷路のままだったから

星になる前に天へとかえるものひとはみんなそう決まってるの

夏の日にあなたはいった遠いところから見ている、きっと見ている

遅く梅雨入りしたと思ったら意外と晴れの日も多く天気予報を睨んでいるうちに梅雨明けの報も聞こえ始める。春がなくなったと言われて長いがいつからかジャケットを脱いでいて最近前は開けている。懸案の希望が見えてから軌道に乗るまで何年だか、視座を引いてみれば誤差のようなものだ。

どうなしゃくふう
堂那灼風

@shakufur

08/10

昨年从不買を決めたものも多いですがうなぎは完全養殖が普及するまで買わないと決めています。夏は梅干しがいい。しかし家族が手に入れてきて食卓に並ぶうなぎを食べないわけにもいかずなんだこの脱法うなぎは大人はやるのが汚いんだと素直においしがれないから不買は徹底したいんですよね。

夏の日にあなたはいつってしまった。青空の下に佇む少女が呟く。白い雲がひとつ、流れていった。随分と速い。とおいとこるへ。突然に。俯いたまま少女の唇が動く。わたしはなにも知らないままだった。少女の嘆きは照りつける日差しに焼かれ続ける。苦しむこともゆるされず、終わらないことを願うだけ。

08/02

みや
水也

@m_iya_o

毎年夏はとろとろです。
体力つきません。
秋になったらお出かけしたいです。

リリカル・レオ、地球に帰る



走れなくなってしまうた 重力を振り切りたくて月へ来たのに
指の間をなんとも言葉はすり抜けて宇宙はただの黒につぶれる
口ずさむ歌をここでも探してる そんなに面白くない月の裏
青がきらい 違う、青がうらやましい 燃えているって証明をぼくも
あの星と定めて 生きてる 生きてたい 重力加速度任せに駆ける
咆哮に命まるごとふるえるね星が輝きだす大気圏
ハローただいまひりつくような不時着で平野を燃やすほうき星だよ

太陽と遊びたい私へ



占い本「しし座は王様」深呼吸 私はきつと、もっと笑える
例えると向日葵かなあ、と言われるが 太陽なんだ 失敬失敬
夏空にしし座はないといつ知った？ 春は似合わん 焼き尽くせ
おとつと下から溶けてた はいセーフ 食べてからね 手を繋ぐのは
生きている今を祝おう やがて死ぬウチらもあのセミみたいなもんで
「言祝ぐ」ということが好きだ めでたくて 夏が来るぞ〜とほいでいく
主役です！デカデカアピるド真ん中 輝け生きる大きく大きく

せづん

@redefine141414

08/09

短歌をはじめて半年とひとつまみ。
本当の初心者ですが、お題に惹かれ、参加
いたしました。
連作も初めてでしたが、楽しかったです！

夏が好き。
だって誕生日があるから。
本当はいつだって大きな声で生きていた
いけれどなかなか難しいから、せめて、
今日ばかりは、マスクを外してハンディフ
ァンをマイクに、大きな声を！
夏が好き。
なんかゆるされた気持ちになるから。

しのぶようこ 篠田葉子

@cros_yo_min

08/06

威嚇と遠吠えの得意なライオン。社会の荒波
に揉まれて短歌の発表をお休みしてしま
いが、2023 年秋より戻ってきました。
獅子座同盟が続いてとても嬉しいです。
どうぞよろしく願いいたします。

風のないはずの月面に、どこからか歌が
聞こえてきた。短歌を休むために来たこ
こは、けれどずっと寂しくて物足りない。
もう一度、あの青い星に戻りたい。地球
の重力圏へ飛び込んで、落下しながら空
を蹴る。
早く、はやく！ もう一度歌おう！
ハロー！ ただいま！ 初めまして！